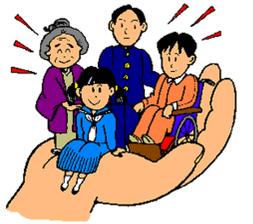


橋本・伊都・那賀租税教育推進協議会長賞



「高校進学」

高野町立高野山中学校三年 竹内 崇仁

「僕は親に高校は公立か国立にするように言われてるんだ。」夏休みも目前に迫ったある日の昼、話題が高校は何処に行きたいかというものになった。僕は私立の高校を第一志望にしていることを話し、すこし冗談混じりに「お前も一緒に同じ高校来いよ。」と言った。その時、返ってきたのが冒頭の言葉だった。聞いた時はさほど気にはならず、そのまま話題が変わり、五限目が始まった。ふとある時母親が、私立は入学費や授業料が高いということを僕に教えてくれたことがあったのを、思い出した。それと同時に、疑問が浮かんだ。「そういえば、何故私立は高いんだろう。」と僕は思った。私立は個人がやっているから高いんだろうか。それとも、と考え出すと止まらなくなってしまった。そこで、僕は思い切って先生に聞いてみることにした。「先生、何故私立は高いんですか？」僕が聞くと、先生は、「私立だから高いところもあるけれど、公立は、支援金制度があるから、特に安いんだよ。」ということを教えてくれた。私立が既に高いものとはいえないが、公立は県の支援で通いやすいということを知り僕はもっと自分の通いたい学校について真剣に考えようという風に思ったし、税金の使い道に興味があった。「税金使い道」とGoogleで検索すると、知ったばかりの教育費についての使い道や、医療費、公共サービスの運用費など、多くの事業に利用されており、自分や、家族の医療費にも使われていると言う事は意外だった。正直に言っても「消費税」だ「年金はいくらになる」だなんてことを言われてもピンと来ない。がしかし、妹はぜんそく、弟も僕もアレルギー体質で小さいころから、毎日のように薬をのんでいたのも、今思えば、医療費はそれなりにかかっていたのではないだろうか。今も服薬は続けているし、これから先、事故等に遭えば、保険などがなくてはとうてい入院など無理だろう。そう考えると長寿大国「日本」といわれるだけあって、日本の福祉はとても発達していることが分かった気がする。それが、すごさの一端だとしても、すこしでもそれを理解し、自分達の払っている税金というものについて、もっと考えを深めることがこれからの社会に求められているものなのかもしれない。